

ショートコメント vol.229 (2021年12月27日)

テーマ：コロナ下におけるホテル・旅館の客室数の変化
～倒産や廃業が増えるも供給全体の減少はみられず～

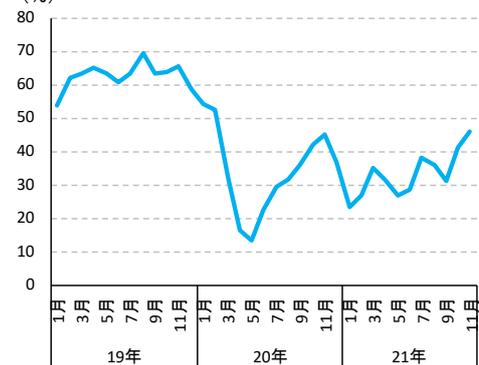
※客室数の推計方法の見直しに伴い、1月11日付で図表2～4及び、本文中の関連数値を修正致しました。全体の論旨に変更はありません

●直近の客室稼働率の推移

直近のホテル・旅館の客室稼働率をみると、10月以降の感染の沈静化を背景に緩やかな上昇傾向にある。全国の11月は46.0%と、ようやく昨秋の水準をわずかながら上回った(図表1)。昨秋といえば、GoToトラベルの導入で一時的に稼働率が上昇し、コロナ禍以降の最高水準となっていた。

ただし、ここへきてオミクロン型変異株の感染が徐々に広がってきたこともあり、先行きの推移は不透明となっている。業界が待ち望むGoToトラベルの再開も見通せず、当面は各自治体による支援策に頼らざるを得ない。

【図表1】 ホテル・旅館の客室稼働率の推移(全国)



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」、以下同じ

●ホテル・旅館の供給室数の推移

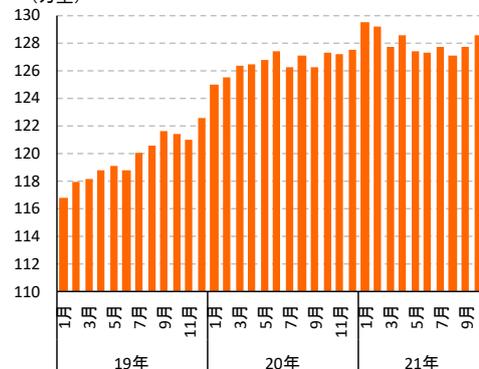
一方、ホテル・旅館業界に関しては、コロナ禍による供給室数の変化も大きな注目点といえよう。

すでに1年半以上にわたって感染が続く中、倒産や廃業の動きも出ている。そういった動きが客室総数の変化に及ぼす影響は、やはり見過ごせない。

そこで今回は、ホテル・旅館の客室総数について、観光庁の「宿泊旅行統計」で公表されている指標をもとに推計を行った。なお推計の対象としては、本統計の設定にあわせて、従業員10人以上のホテル・旅館としている。

推計結果は図表2のとおりであり、コロナ禍以降も減少の動きはみられない。需要の減少で倒産や廃業が増える中、少し意外な結果であるが、一定の新たな開業の動きが続いた結果とみられる。

【図表2】 ホテル・旅館の客室総数の推移(全国)



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」
※リそな総研による推計値(対象は従業員数10人以上の施設)

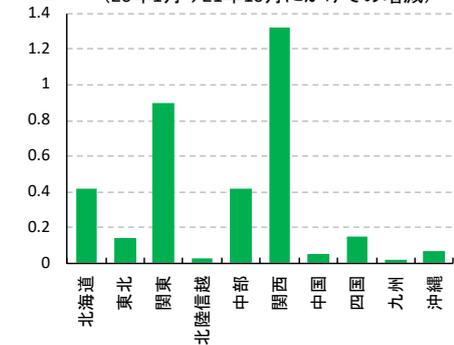
●供給室数の地域別推移

結果として、20年1月から21年10月の22か月間でみると、全国で3.6万室が増える形となった。その地域別の内訳をみたものが図表3である。

関西が1.3万室の増加と最も多く、関東の0.9万室、北海道、東海の0.4万室がそれに続く。全地域で増加がみられる中、やはり目を引くのは関西の増加であろう。

この背景としては、関西はもともとインバウンドの急増によ

【図表3】 ホテル・旅館の客室総数(地域別)



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」
※リそな総研による推計値(対象は従業員数10人以上の施設)

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

り、コロナ前にはホテル開発の動きが各地で相次いだことが一因とみられる。

コロナ禍を理由に、一部で開発を見送る動きが出た一方、感染収束後の需要の回復を見越し、開業に踏み切る動きも少なくなかった。その結果、他地域を上回る供給の増加につながったと考えられよう。

●関西の各府県状況

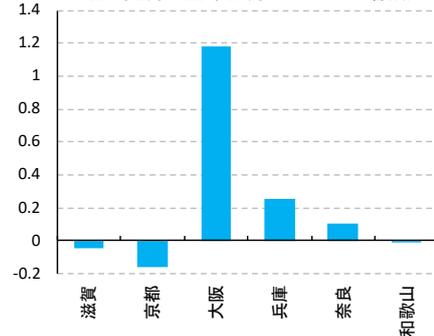
なお、関西の府県別にみると、大阪が36万室と群を抜いて多い(図表4)。また、兵庫や奈良も増加となっている一方で、京都や滋賀では減少がみられる。

特に、京都の減少が気になるが、京都市内での高級ホテルの開業が伝えられている一方で、やはり倒産や廃業の動きが多いことを意味する。

大阪と京都の供給状況の違いは、今後の両地域の稼働率にも影響を与える可能性が高い。つまり、同じように国内需要が回復したとしても、供給が減っている分、京都の方が稼働率は上がりやすいとみられる。

その一方、京都はインバウンドからの高い人気を誇るだけあって、感染の収束後は早期の需要回復が見込まれる。コロナ前には、ホテルの供給不足が指摘されていた京都だけに、コロナ禍による供給の減少が市場の回復を遅らせる要因となりかねず、今後の推移が注目される。

【図表4】 ホテル・旅館の客室総数(関西)
(万室) (20年1月→21年10月にかけての増減)



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」
※りそな総研による推計値(対象は従業員数10人以上の施設)

本件照会先：大阪本社 荒木秀之
TEL : 06-6258-8805 mail : hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。